

令和4年度 三股町総合教育会議 議事録

令和4年11月24日(木)
13:30~15:10
三股町役場4階第2会議室

○出席者

町長部局:町長 木佐貫 辰生、副町長 石崎 敬三
企画商工課長 山田 正人、同課係長 大浦 明
教育委員会:教育長 米丸 麻貴生、三股町教育長職務代理者 大重 順一、
教育委員 屋敷 和久、長岡 江利子、兒玉 たえ子、
教育課長 福永 朋宏、同課長補佐 下西 志浩、
同課主幹 松下 綾、同課副主幹 戸高 志織、郡司 大円

○議 事

1 開会

2 町長あいさつ

3 協議事項

(1)令和4年度全国学力学習状況調査から見た学力向上の課題と今後の対応

①調査結果の分析

資料「令和4年度全国学力・学習状況調査から見た学力向上の課題と今後の対応
について」P1~P4 にて米丸教育長が説明

(意見及び質問)

(屋敷委員)授業の改善については昨年・一昨年も言い続けられています。これを具体的に
変える仕組みとか方策は何かあるのでしょうか。

(米丸教育長)今後の対策については後ほど説明させていただきます。

(石崎副町長)児童生徒に対する調査の他に学校に対する調査もあったと思うのですが、
その中で学校側の状況として授業改善等に関する結果は出たものはあるのでしょうか。
学校長に対してその学校でどのように授業改善を行っているかというような調査が行
われていると思うのですが、その中で特徴的なものは出ているのでしょうか。今ない
のであれば、児童生徒の視点からと指導者の視点からというのは教育委員会の分析
結果ですので、実際現場の先生達がどう意識しているかという調査結果で把握出来
ていれば、そちらも参考にさせていただいて改善が出来ればいいのかと思います。

②分析に基づく学力向上の対応

資料「令和4年度全国学力・学習状況調査から見た学力向上の課題と今後の対応
について」P5~P19にて米丸教育長が説明

(意見及び質問)

(米丸教育長)先ほどの屋敷委員の質問の回答ですが、毎年さまざまな課題が出て改善していかないといけないと思っておりますが、昨年度からICTの活用というのが授業改善の課題となっていて、教育研究所もその研究を進めていただいております。1年目はどのように活用するかというところだったのですが、2年目の今年度はいかに有効に活用するかということが授業改善の課題となっています。生徒は興味を持ってタブレットを利用している状況で、学習に取り組む姿勢も高まればとは思っていますので、授業改善の一つとして有効な活用方法について考えていきたいと思っています。

(兒玉委員) 調査結果をふまえた具体的な取組で、論理力をつけるドリルの実施ということで、梶山小学校と三股西小学校はしっかりと取り組んでいると説明されましたが、他の学校は同じようにされているのですか。

(米丸教育長)このドリルについては各学校で活用してもらう、例えば学習用にどのドリルを購入するのか、いつ活用するのかということについては統一はしておりません。例えば梶山小学校は自作に近いような形のドリルを作られて積極的に活用されていますので、その成果も出ているのではないかと思います。

(兒玉委員)他の学校もそのようなものがあればいいなと思いました。

(米丸教育長)学校それぞれがどのように活用していくのかは差があるようには思いました。

(長岡委員)そのドリルを活用していい結果が出ているということは他の学校の先生もご存知なのですか。

(米丸教育長)具体的な数字は出していないですが、校長会等では話をしています。

(木佐貫町長)まとめ、振り返りの時間が不十分ということで、自宅への学習についての保護者への指導についてはどのようにされていますか。この調査の結果を見ると、自宅学習が弱く、時間を有効に使っていないなど、その積み重ねが結果にでていないかと思われるのですが。

(米丸教育長)各学校・学級でそちらについてもお願いはしているとは思いますが、以前に比べると課題が少なくなっているのは確かです。そこをいかに自分たちでやっていくのかについては、夏休みに課題をたくさん出すことによって夏休み明けの登校しぶりが増えたり、コロナ禍で課題をたくさん出すことがマイナスになっていたりすることもあります。保護者の理解を得ながらやり方を変えながらやってきてはいますが、保護者が子ども達の学習の様子を確認するのが出来ていない家庭もあります。

(木佐貫町長)学校の学習だけではすべてのことはマスター出来ませんよね。自宅で振り返り等がないと。

(大重教育長職務代理者)秋田と石川と福井が記述式の問題の平均点が高いのですが、秋田大学の先生がまとめているのですが、教職員の学校質問紙から見える3つの共通点ということで、秋田と石川と福井は授業において生徒自らグループで課題を設定し、その解決方法を話し合っ求める学習活動を取り入れましたか、という質問に対し

て、回答率が高く、それから児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたかとの質問も回答率が高いということです。また家庭学習の取組として、児童生徒に家庭学習の方法について具体例を挙げながら教えるようにしましたかというのも回答率が高いということです。ですので、例えば読み声カードとかいうのも効果があるので、そういうのも含めて家庭学習の取組として学校が指導している割合が高いということです。それから家庭学習の課題の書き方について校内の教職員で共通理解を図りましたかとの質問も回答率が高いということです。探究型授業とか自分で考えて表現するとか、先生方が授業改善でその事に力を入れてやっていくことが大事で、それを学校だけではなくて自宅でも近い事をさせるような事も大事ですし、先生方のチームワークも大事だと思います。石川と秋田は対話型の学びの学習を重視しながらやっている、家庭学習の手厚いサポートをやっている、教職員のチームワークがいい、ということで秋田大学の先生がまとめています。3年毎に実施される PISA という学習到達度テストの結果を見ると、日本人は分析したりとか読解したりとかが弱く、小学校から中学校でのその状態が高校1年生の PISA の結果に出ています。日本の教育はその辺も変えていかないといけないと思います。日本は全体で平均点をあげていこうとしていますが、ヨーロッパとか新興国とかは優秀なものを伸ばせばいいという考えです。あくまでもタブレットは補助的なものであって、ドリルが効果的であるならば、そちらをやっていってもいいですが、読解力を養う長文を読むということが大事だと思います。文字を見ないといけない、読ませないといけないというのが一番の課題ではないかと思うし、スマホでニュースを見るから新聞を見なくてもいいというのではなく、文字を読まないといけないと思います。また先生が質問をどんどん投げかけて児童に考えさせるのも必要ではないかと思います。その際にタブレットを活用すればいいと思います。学校の授業改善、家庭での学習改善、子ども達に本を読ませるが大事だと思います。

(石崎副町長)教育委員会もいろいろ考えておられますし、大重委員の言われるような事もやっていく必要があると思いますが、やはり肝心なのは各学校の特色や自主性を生かしながら、教育委員会が考えていること、大重委員が言われたことが学校で行われているかを定期的に確かめることではないかと思います。重点支援校訪問についても現在年1回なので、例えば指導主事は支援校訪問には行きますが、そういった機会を確認するとか、ICT とかなら一度7月ぐらいに利用率などのデータを出していただきましたが、利用率はどうか等、定期的に確認していくとかが必要ではないかと思います。基本的な方針を踏まえた上で、各学校が実践して、それを教育委員会が定期的にチェックすることをサイクルとしてやっていけばいいのではないかと思います。

(長岡委員)先生がどのように思われているのかを知りたいのですが、子どもの集中力って短いと思うのですが、1クラスの人数が多く感じていて、学力を上げたいというのであれば、国語だったり算数だったりの授業の人数を分けたり、クラスを1つ増やしたりしたほうが良いと思うのですが。出来る子は自分で出来るけど、ついていけない子はどんどんおいて行かれるので、その時に授業が分かっていると上手くい

くのではないかと思いました。クラスが増えたりすると先生を増やしたりで予算の関係とかあると思いますが、若い教員に対しての指導力等、退職された指導力のある方にやっていただくことは出来ないでしょうか。

(米丸教育長)複数で指導する体制は非常に効果があると考えていますが、どのような方法で行うかも考える必要があります。ボランティアで来ていただく方法もあります。例えば延岡市は旭化成のOBの方に中学校の数学の授業に加わっていただいて、教員が主で授業をするのですが、つまりしている生徒を指導したりしています。

(木佐貴町長)実情として中学 1 年生や小学 3 年生の先生を募集しても、応募は無いですよね。これだけ地域に教員 OB がいるのにですね。

(米丸教育長)今、放課後学習会では南九州大学の学生に協力していただいています。

(木佐貴町長)学生ならいるのですが、一旦定年された方がもう一度子ども達の学習の場に戻ろうという方が、延岡の例のように組織としてあればいいのですが、応募してもなかなか募集がないですよね。非常に難しいですよね。

(大重教育長職務代理者)えびの市が退職した先生がボランティアでやっていますよね。

(石崎副町長)えびの市は、1 クラス 30 人学級を実現するために市が単独で費用を出してそのようなことをしていますが、三股町の場合は学校によっては欠員があって正規の教諭自体も足りないなかで、さらに人材を確保していくことは厳しいと思います。本当は国・県が教職員の定数を増やしていただいて、きちんと予算の措置をして、枠ではなくて実際の職員を配置していただく、それが教育委員会としては一番良いのではないかと思います。

(屋敷委員)先生方の専門性は大切だと思いますが、同時に宮崎県内ならば宮崎市が成績が良いわけですね。先生も転勤があるので三股町にその先生が来て手を抜いて成績が悪いわけではなくて、先生の力量もありますが、やはり親の無関心さ、文教みまたに対する気持ちの無さというのがあると思うので、そのようなところを喚起していく必要がある場合に、トップの方々「文教の町」ということをもっと声をあげていくべきだと思います。文教のまちとして数字を上げていくことは大事だと思いますが、1, 2年で出来るわけでもないですし、それよりも町として何か教育に対してチャレンジしていることはないのでしょうか。例えばブラック校則とかどこでもあると思いますが、それが話題になって後々になってから変えていくのではなく、挑戦的に変えていくとか、町が学校に対して色々なことをやっていることをアピールしていかないと、親御さんのパワーにはならないのかなと思います。

(石崎副町長)教育委員会として考えてきたことは、ブラック校則の件でいえば、2年ぐらい前から学校の方に見直しをお願いして、実際見直されている部分もありますし、それ以外の部分では、今回町長が方針として出された、中学校の給食費の無償化というのも、いわゆるチャレンジということではないかと思います。やはり教育委員会がやっている事を町民の皆さんにわかり易く発信するということについては、教育委員会だけではなく、役場としてもそうですが、DX の中で発信の方法というのは考えていくべき点が大きいかと思います。もっとホームページでこのようなことをやっているとか、そういったものを発信していったり、研究公開の様子も内部だ

けではなく、子どもの顔が映ることに気をつけながらホームページで動画配信したりするとか、DXを町全体で考えていきますので、町の行政のありかたとして今後心がけていかなければいけないと思います。

(長岡委員)先生方からの改善の意見が挙がることあるのでしょうか。ブラック校則の件の例で言えば、校則を変えましょうというような意見が先生方から挙がってくるのでしょうか。町から校則を変えましょうと言って変わってきたと思いますが、生徒は思っても変えることが出来ないの、校則以外のことを含めて先生方から変えましょうという意見は挙がってくるのでしょうか。

(米丸教育長)学校の中では、事あるごとに校則の改善について意見が挙がってきます。

(長岡委員)校則以外の件についてはどうでしょうか。

(米丸教育長)そちらについても、双方に話をすることはあります。校則について言えば生徒総会とかあるので、それを参考に变えることもあります。最近であれば、三股中学校で靴下が白だけだったのが黒を認めるようになったり、来年度になるとは思いますがスラックスを導入したりしていく考えもあります。時代の流れや生徒の要望を受けながら変えていく考えはあります。

(木佐貫町長)教育委員会で解決すべき問題は教育委員会で行いますが、予算を伴うものになれば行政の方で教育環境の整備という形で行ってはいます。

(兒玉委員)e-ライブラリというのは家庭に持ち帰って出来るものでしょうか。

(米丸教育長)タブレットは持ち帰りも出来るし、自宅のパソコンでも出来ます。

(兒玉委員)保護者のスマートフォンでそれを見て、子どもの学習状況を確認することは出来るのでしょうか？

(米丸教育長)それは出来ません。

(兒玉委員)関心のある家庭と関心のない家庭では差が出るだろうなと思いました。

(米丸教育長)先ほど大重委員からも話がありましたが、学校も家庭を巻き込んで色々なことをやっていくことが不足しているのではないかと思います。e-ライブラリがどのようなものなのかなど保護者に伝わっていないこともありますので、今後の方策として家庭をいかに巻き込んでいくかを考えていく必要があると思いました。

(木佐貫町長)それぞれのご意見をふまえて、対応の仕方を検討していただければと思います。

(2) 今後の児童生徒数の見込みについて

資料「小・中学校児童生徒数調べ」、「特別支援学級における学級編制について」、「個別の配慮が必要な児童生徒と特別支援学級の状況について」にて米丸教育長が説明

(意見及び質問)

(木佐貴町長) 通常の学級の状況の発達障害の可能性のある児童生徒の国の 6.5% という数値は平成 24 年と古い年の数値ですが、これが最新なのでしょうか。

(米丸教育長) はい、現段階では、平成 24 年が最新となります。

(木佐貴町長) 国の方も、町と同じで数値が上がっているのではないかと思います。発達障害の可能性のある児童生徒数も増えつつありますので、それに対応する教室の件など学校でも苦慮されているのではないかと思います。それに対して行政の方でも支援していきたいと思います。

(石崎副町長) 今年だったと思いますが、国連で日本への助言の中に、特別支援学級は廃止すべきであり、インクルーシブ教育に移れということが出されましたが、今の動きはどうなっているのでしょうか。

(米丸教育長) 今回の学級編制が変わる際に、その話が出たのですが、今のところ県としては特別支援学級を継続していく前提で編制基準を変えるとのことでした。ですので廃止という話は出ていません。

(屋敷委員) 特別支援学級を廃止するということが想像出来ないのですが、世界的にはそれがおかしいとなっています。これを廃止するビジョンというのがありますか。

(米丸教育長) 廃止となれば考えていけないといけないのですが、今のところは特別支援学級を充実させるということを考えています。国の方も初任者が必ず特別支援学級の担任をするようなことは出てきていますが、すべてを廃止する方向では進んでいないところではあります。すべての教員が特別支援学級の経験を積む方向で進んでいます。

(大重教育長職務代理者) 日本の実情とはかけ離れていると思います。障がい者も健常者も共に働く、そのようなところで平等であって、その勉強をする過程が生徒も大人も理解した上で特別支援学級があると思います。どちらが幸せなのか、どちらが正しい選択なのかは、保護者が選べば良いのではないかと思います。とても難しい問題だと思います。

(木佐貴町長) 支援を必要とする方がクラスに入れば、そのために授業が出来なかったり、誰かを付けないといけなかったりと課題もたくさんありますので、国の動向を見ながら、情報収集して、町としても対応していく必要があると思います。

(屋敷委員) 障がいのある方にも不登校の問題も関連付けられていると思います。中学校になれば不登校生が一定数いるのはここ何年も変わらないのですが、そのために適応指導教室があり、そこに 10 人とか通われていると思いますが、実際の不登校者は年間 50 人いかない程いるとのことで、その教室に行けない子も支援をしないといけないと思います。個別最適な学びを得られるチャンスをバックアップしないといけないと思いますが。

(木佐貴町長) 不登校生の連絡体制は整備されていて、状況把握はされているのでしよ

うか。

(米丸教育長)不登校生の一部、10人ぐらいは適応指導教室に通って来ていまして、指導が出来る状態です。中学校では、学年室と呼ばれる教室に通ってくる生徒もいて、そちらでは直接先生が指導をしています。全く通えていない生徒については、例えばタブレットで学習することも出来るのですが、その意欲が無い生徒がほとんどで、昼夜が逆転している生徒もいて、その生徒達には週1回は、家庭訪問を行って、顔を合わせる機会を作るようにはしています。3年生の後半になると進学をしたいという生徒もいて、進学の手続きをする際は学校に来て学習する機会があります。1・2年生の段階で完全不登校になった生徒については、学校に来る機会を作れていないのが現状です。

(木佐貴町長)不登校の生徒達のある程度の実態把握は出来ているということですね。

(米丸教育長)はい。

(3)その他

特に意見無し

(木佐貴町長)教育については、大変重要なテーマですので、行政としても教育委員会の色々なご要望にはお答えしていきたいと考えていますが、全体的なパイの中でどのように割り振りするのかを議論することも大切ですので、十分意見交換しながら、緊急性・優先性の高いものをしっかり選別していきたいと考えています。すぐに結果が出るものを求めがちなのですが、教育はなかなかそうもいきません。先程お話にありましたように、教育委員会が行っていることを見える化し、情報開示し、皆さんにお伝えすることで、保護者を含め町民の皆さんの意識が高まっていけば、色々な方のお力添えがいただけるのではないかと思います。皆さんで教育の質を向上させる雰囲気を作るためにも、今、教育委員会で行っていること、これから行うことを伝えることが大事ではないかと思います。先程いただいたご意見を大事にして、進めていただければと思います。協議の方は以上で終了します。

4 閉会